

9/19  
赤旗

# 2016 焦点 論点

## シリーズ 戦争法強行1年で考える

市民連合メンバー・上智大教授 中野 晃一さん



なかの・こういち 1970年生まれ。上智大学国際政治学教授(政治学)。「立憲デモクラシーの会」呼びかけ人。「市民連合」メンバー。著書に『戦後日本国家保守化の謎』(岩波書店)、『右傾化する日本政治』(岩波新書)など。

昨年9月18日の安保法制一戦法強行から1年。同法の廃止と立憲主義の回復という大義を掲げた市民と野党の共闘により、参院選では11の1人区で野党統一候補が勝利する成果を挙げました。これまでの共闘の発端と今後の展望について、市民連合メンバーの中野晃一上智大教授に聞きました。(聞き手・林信誠)

市民社会の後押し  
心えた野党の努力

「この1年を振り返り、あらためて市民と野党の共闘の意義についてお聞きします。」

現在の日本の選挙制度は、投票がなされて非民主的になっており、そこで野党共闘の必然性があります。衆院の小選挙区でも、参院の1人区でも、放つておけば自民党が勝るを全無視していてもおかしくなく、野党が分裂したままでは、自公を食む改選勢力の構築を阻止することができません。

中野氏は、野党共闘の意義や、自前の候補者を任ずる権利もあります。しかし、立憲主義の回復という、向が打つ手はないのか、という懸念が湧いてきました。

中野氏は、野党共闘が急がれるが、野党が東京・渋谷のハチ公前、そして全国各地での集まり、シリーズなどから「野党は共闘」——「おんなげを合せて自公に打ち込んで、という懸念に近い声も聞かれました。

そして、昨年9月の安保法制強行直前に、国会前の「野党は共闘」という声や、選挙区で入るという日本政治を担う市民社会と野党政治のこの連携が生まれ、

安保法制強行は、止めたが、市民の民主主義は、打ち込まれた。なんとかが野党勢力を結集させて参院選

### 参院選は共闘継続への財産より内実のある市民参加に

「一矢報い、安保法制を廃止し追い込もう」という運動へと発展しました。

また、共闘は安保法制強行の翌日、「国民連合野党」樹立のために野党連帯努力をという第一の歩みを取ったという意義が、断つておりました。

2月15日、野党共闘の間、市民連合が結成されました。一口に野党共闘といいますが、それは決して一夜にしてできたものではなく、失敗と再試みの連続を経て、市民社会の後押し、それによって野党の努力が、この国会を受け、全国区での参院選で実現しました。

参院選の結果、全一人区で野党統一候補が勝利した。野党共闘の成果、全一人区での参院選で野党統一候補が勝利した。野党共闘の成果は、参院選で野党統一候補が勝利した。野党共闘の成果は、参院選で野党統一候補が勝利した。



戦争法案の参院本会議強行撤回を求めるSEALDs(シールズ)の若者たち=2015年9月19日午前3時半、国会正門前

「一矢報い、安保法制を廃止し追い込もう」という運動へと発展しました。

また、共闘は安保法制強行の翌日、「国民連合野党」樹立のために野党連帯努力をという第一の歩みを取ったという意義が、断つておりました。

2月15日、野党共闘の間、市民連合が結成されました。一口に野党共闘といいますが、それは決して一夜にしてできたものではなく、失敗と再試みの連続を経て、市民社会の後押し、それによって野党の努力が、この国会を受け、全国区での参院選で実現しました。

参院選の結果、全一人区で野党統一候補が勝利した。野党共闘の成果、全一人区での参院選で野党統一候補が勝利した。野党共闘の成果は、参院選で野党統一候補が勝利した。

でもありません。ところが残念なことに、市民との約束と、市民参加が活きた議論もありません。

共闘を強化していく上で、市民参加が活きた議論の必要に迫られています。現状では、私たちが市民が、かなり無理のある形での候補者を各党にお任せしています。しかし、市民を納得させる候補者を選ぶ仕様が、できれば、野党共闘をたたかいていくことができます。

さらに、野党共闘は「立憲野党」の表現で、立憲主義を取り戻す共闘の意義を有権者にわかりやすく伝える努力が求められます。

参院選に派兵されていく。市民が参加し、中野氏が求めた政策案が結成され、より強固な共闘が実現すれば、その政策力も必ずしもたたり、野党共闘の共闘を実現するまで、私たちが積極的に取り組んでいきたいと思います。